

明烏

ダウン症の息子を持った母親には、心配事がありました。息子の時次郎があまりにも堅物すぎて、一切の遊びをしないのです。

ある日、近所の遊び人に頼んで、居酒屋に連れて行ってもらいました。

時次郎は、お酒を飲んだことはありませんでした。

そこで、遊び人たちは、時次郎に、「お酒は長生きの薬だ」とか「大人になったら飲まないと運気が落ちるぞ」などと言い、何とか居酒屋に連れ出した。

お酒を飲み始めて、やっと真相に気付いた時次郎は、慌てて居酒屋を出ようとしますが、遊び人たちが言います。

「大門には、見張りがいて、勝手に出ようとすると袋叩きにされますよ」

脅かされた時次郎は、しぶしぶお酒を飲み続けます。

結局、夜を明かすまで、飲み続けた時次郎と遊び人。

しかし、時次郎がとにかく、酒に強い。酒豪を相手に、遊び人たちは、完全に酔いつぶれてしまいました。そして、遊び人たちが千鳥足で帰ろうとすると、時次郎が言います。

「大門には、見張りがいて、勝手に出ようとすると袋叩きにされますよ」

遊び人たちは、そんな時次郎のタフさに降参しました。

「見張りなんていないよ。飲み終わったら勝手にお帰り」

時次郎は、満面の笑みを浮かべ、こう言った。

「今度お母さんと一緒に飲みたいな」

了